

## 倶多楽の火山活動解説資料（平成30年2月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

## ・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

今期間、大正地獄で熱湯噴出がありました。大正地獄の熱湯噴出は度々みられており、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

## ・ 地震及び微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

## ・ 地殻変動の状況（図2-③）

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、2017年7月以降、日和山東-白老を結ぶ基線でわずかに伸びの変化がみられていますが、表面現象や地震活動に特段の変化は認められていません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況  
(2月28日、414m山監視カメラによる)

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ([http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

次回の火山活動解説資料（平成30年3月分）は平成30年4月9日に発表する予定です。

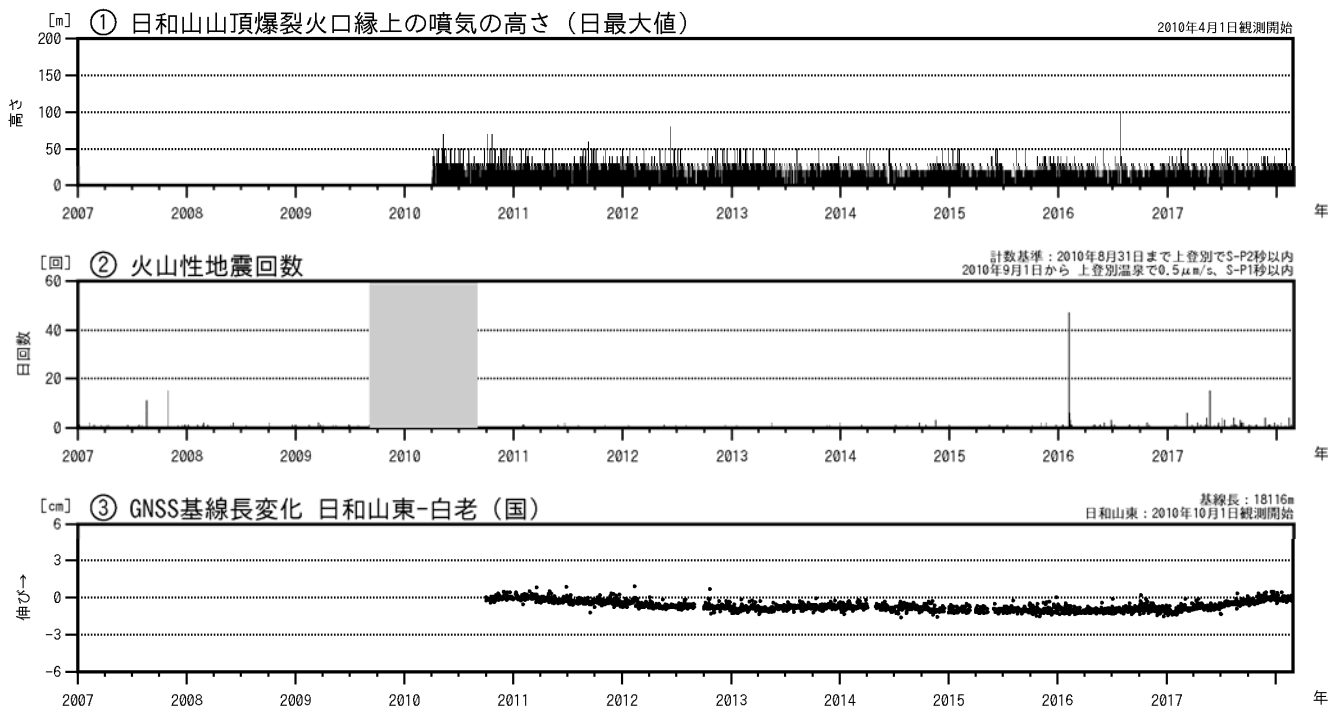


図2 倶多楽 火山活動経過図 (2007年1月~2018年2月)

- ・GNSS基線ではわずかな伸びがみられていますが、地震活動や表面活動に変化は認められません。
- ・②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ・③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
- ・(国): 国土地理院

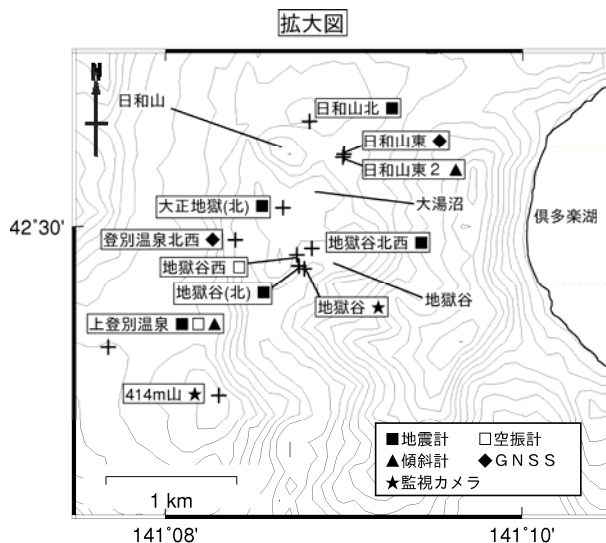
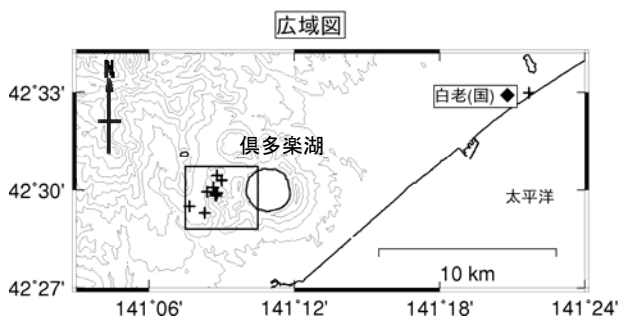
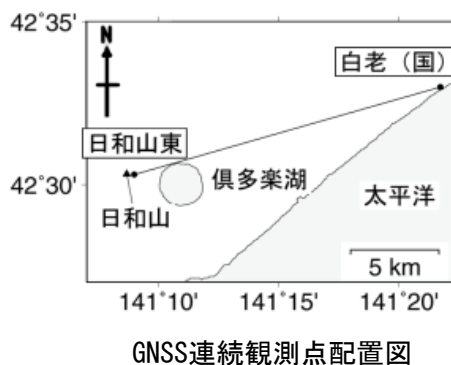


図3 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国): 国土地理院

(北): 北海道大学